



土器ッと古代“宅配便”

千葉県教育振興部文化財課文化財普及・管理班 上席文化財主事 **にしむら だん**
西村 壇

文化財課では、県民の歴史や文化に対する興味・関心や理解を促すため、学校等の教育機関を中心に、公民館等の社会教育施設、各種イベント会場等への出張展示や出前授業、体験学習指導を行う「土器ッと古代“宅配便”」を実施している。今回は体験内容を紹介する。

1 土器ッと学ぼう（展示解説）

千葉県では2万箇所を超える遺跡が発見されており、これらの遺跡から出土した打製石器や磨製石器、土器等の実物を用いて、当時の暮らしの様子について解説を行う。解説時に、実物に触れることで、歴史や考古学への興味・関心につながることを期待している。

2 火おこし

古代の火おこしとして、複数人で火切棒と弓を用いて、火だねを作り、麻で作られた玉に移して、火をおこす。弓と火切棒の動かし方に苦勞することもあるが、慣れてコツをつかむと小学生だけでも火がおこせるようになり、大きな達成感を生むとともに、火をおこす大変さを実感できる。



火おこしの様子



実物に触れる体験

3 土器ッとしおりづくり

土器片の文様を紙に写し取り、しおりを制作する。色使いにより、自分だけのカラフルな文様を浮かび出させ、細かな文様の観察も可能である。なお、しおりづくり体験は未就学児でも楽しめる体験の一つである。

4 勾玉づくり

県内でも、縄文時代や弥生時代、古墳時代の様々な色、形の勾玉が出土している。当時はヒスイやメノウなどの硬い石を使っていたようだが、体験では軟らかく削りやすい滑石を用いる。滑石を砥石に擦り付けながら形を整えていき、紙やすりで磨き上げ、形も大きさも人それぞれの世界に一つだけの勾玉が完成する。勾玉にひもを通して、児童が首から下げた時の表情は笑みにあふれる。

なお、これらの体験内容を組み合わせて行うことも可能である。石器や土器に触れ、火おこしや勾玉づくりなどを通して、当時の人々の努力や工夫、知恵を感じ取り、文化財ファンが増えることを願っている。



詳しくはこちらのQRコードから

千葉教育 梅 (No. 683) 令和5年11月30日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 鉄井 修一
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465